

作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	上野 真太郎
所属機関名	生物地球学部 生物地球学科
職位	助教
在籍年	1 年目

教育の責任

私は 2025 年 4 月に生物地球学部に着任し、学部学生を対象とした生物学に関する講義や実習（動物系統学、生物学実習など）を担当している。学芸員養成に関わる講義（野外博物館実習）も担当し、学生たちの資格取得をサポートしている。その他、主に水生生物（特にカメ類）の生態や行動をテーマとした卒業研究の指導も行っている。今年度は 2 名の卒研生を指導し、大学院生 3 名の研究にも携わった。

教育の理念

高校までの教育は学生たちが教員から知識や手法を一方的に学ぶ、受動的な学びが大部分を占めるが、大学では社会に出た際に即戦力として活躍できるよう、個々の学生が自立し、自発的に学ぶ、能動的な学びが重要であると考えている。私が所属する学科では特にフィールドワークからの学びを重視しており、関連実習では学部 1 年から 4 年にかけて、野外調査活動を通じて、学生に自主性と行動力が身に着くことを目指している。

教育の方法・方針

講義では、教員・学生を含めたグループワークの他、受講生が計画・実行するような内容を取り入れ、学生の自主的な行動を促している。卒業研究やその先の大学院において、個々の研究の遂行に必要な実験や調査を自立して行えるよう、講義では実際の研究例の紹介を多く取り入れ、さらに実物（標本）を提示し、講義を通して現場に近い経験が出来るように意識している。野外実習や卒業研究では、調査・分析だけでなく、調査を実施するまでに必要な手続きや調整に関しても出来る限り体験してもらい、より実践的な知識や経験を積めるようにしている。

教育の成果

講義中や講義後に質問をする学生が多く見られ、講義が進むにつれて、より専門的な質問も見られるようになった。小テストやレポートにおいて、知識が深まったとの回答が見られた。今年度、卒研指導、修士論文の助言をした学生が学会や研究集会でその成果を発表した。

今後の目標

自ら考え行動できる人材を養成できるよう、講義や実習の中でも学生が主体的に取り組む時間を多く確保したい。さらに魅力的で効果的な講義となるよう、講義の内容や手法の改善に努め、学生の自主性と行動力を養成するための方法論として確立させることを目指す。

根拠資料

- ・ 授業アンケート
- ・ 日本・台湾爬虫両棲類学合同大会 & 日本爬虫両棲類学会第 64 回大会講演要旨集
- ・ 第 12 回淡水ガメ情報交換会・第 1 回水辺の外来種研究集会講演要旨集